

# 教科等研究会（小・中学校書写部会）

## 令和元年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

自分の書いた文字が好きになり、書くことに意欲が持てる書写指導の在り方  
～自ら気づき、高め、日常生活に役立てる実践を求めて～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/21	年間計画	益城中央小	8/9	実技研修 事前研	益城中央小	12/3	授業研 (松本教諭)	御船中	2/21	実践 報告会	益城中央小

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

昨年度までの研究をさらに進めていくために、今年度も引き続き同じテーマとし、サブテーマを日常生活につなげるものとした。

「書いた文字が好きになり」とは、学習課題を明確化し、ポイントをつかんだ練習をすることで、児童生徒がその時間の課題を達成し、文字が上達していく。その達成感により、それぞれが自分の書いた文字に自信が持てるようになることと考える。（「分かる・できる」）そして、その自信が「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える。（「楽しい」）

「自ら気づき、高め」とは、児童生徒が試書→練習→清書→評価という学習活動の中で、試書と手本の文字を比較し、学習課題を達成するためにはどのような改善が必要かを自ら考えるとともに、自分自身の課題も意識して練習し、より良い文字となるような作品作りに取り組むことと考える。「日常生活に役立てる」とは、書写の学習で学んだことを各教科の学習や生活の様々な場面（模造紙へのまとめや手紙、書き初め等）で積極的に生かす態度を育成することだと考える。

実技研修は、毎年会員からどのようなことを学びたいか意見を聞き、取り組むことにしている。今年度は、基本的な書写の授業展開について学びたいという意見が出され、模擬授業の中で基本点画の筆づかい等を学び、実際に練習・清書するというようにした。

研究授業は、小学校と中学校が毎年交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。しかし、小学校と中学校では、ねらいや授業内容がそれぞれ異なるため、1回の授業研究会では実践力の向上を図ることが難しい。そこで、年度末に、一人一人の授業実践を発表し意見交換を行う実践報告会を計画している。会の中では、多くの実践例を持ち寄ることで、小・中学校の連携を図るとともに、書写の楽しさを味わわせる活動の工夫や技術を高めるための指導法、日常生活へどうつなげていくか等、会員どうしで共有できると思われる。

#### (2) 成果と課題

実技研修では、試書→練習→清書→評価という基本的な書写の授業展開について、津森小学校の松本教頭に模擬授業を行っていただいた。試書を行った後、明確化された学習課題が出され、練習では学習課題を達成しようと参加者も児童生徒になったつもりで真剣に取り組む姿が見られた。また、授業者は机間指導の中で、よく書けているところを具体的に褒めたり、筆づかいが難しいところは直接筆を執って指導したりと、どのような指導を行うとよいのかを具体的に指導していただいた。その結果、清書では、試書の作品と比較するとどの参加者も上達することができていて、自己評価や相互評価の中で達成感を持つことができた。今回の模擬授業を体験したことで参加者からは、「授業展開の仕方がよく分かり大変勉強になった。」という意見や「導入の工夫やDVDを活用した示範など、ぜひ参考にしたい。」という意見等が出された。

授業研究会は、本年度は中学校が担当した。1年生の「生活に生かそう」という単元で、自分の目標や好きな言葉（文）を書き、カレンダーを作るというものであった。本授業では、目的や用途に合わせて、字形、文字の大きさ、配列などを意識して書くことができることをねらいとした。

授業の導入では、他のクラスの生徒の作品を実際にいくつも紹介することで、生徒に自分たちも同

じような作品を完成させたいという学習への関心・意欲を高めることができている、工夫がなされていた。また、本時の学習の流れを確認して取り組ませたことで、生徒一人一人が見通しを持って、自主的に学習に向かう姿勢が見られた。

練習に向けて自分が意識する視点や工夫したい点を決める活動では、4つの視点（文字の大小、字間、行の中心、行間）を中心に、前時に書いた作品を見ながら、どの生徒も自分の課題を明らかにすることができていた。

練習では、筆ペンを使い、どの生徒も集中して書くことができていた。日常生活に役立てるという視点で、筆ペンを取り入れていたのは、生徒の関心も高めることができている効果的だった。日常生活につながっていくような学習であると考え。また、練習の中でペア活動を取り入れ、友だちの作品を互いに評価させたことで、自分の改善点を整理することができていて、清書に生かそうとする姿が見られた。

評価では、前時に書いた作品と本時の清書を比較させたことで、それぞれの上達ぶりを実感させることができていた。数人の生徒の学習前の作品と学習後の作品をクラス全体で紹介したことで、それぞれの生徒の満足感を高めることができた。

課題としては、練習に向けて自分が意識する視点や工夫したい点を決める活動の際、なぜ自分がそれにしたのかをしっかりと自覚させるとよかったという意見があった。それをはっきりさせることで、何をどう練習すればよいのかより明確になったのではないかと考える。また、文字の構成に関しても、なぜ自分がその構成にしたのか自分の考えを明確にするとよかったという意見があった。そうすることで、ペア活動の際、自分はこういう考えでこの構成にし、こういった視点を持って練習に取り組んだのだがどうだったのだろうかという意識で、友だちからの気づきを伝えてもらうことができたのではないかと考える。

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

#### 《授業者自評》

- ・生徒の実態から筆ペンを使うことにした。行書を学習し始めたこともあり、生徒の関心も高く、筆ペンに親しみを持って学習に取り組むことができた。
- ・カレンダーを作るという学習のゴールを設定したことで、意欲を持って学習に取り組む姿が見られた。
- ・前時に書いた作品をもとに自分の課題を考えさせたが、それぞれに自分の文字をよく見て課題を設定することができていたように思う。
- ・作品の整え方として、4つの視点（文字の大小、字間、行の中心、行間）を中心に指導したが、その一つ一つをもっとしっかり確認し、指導する必要があると思った。

#### 《研究協議の内容》

- ・作品に書く言葉や文を生徒たちが自分で考えたことで、学習への関心が高まり、落ち着いて意欲的に取り組むことにつながったと思う。
- ・筆ペンの活用は、日常生活に生かすことができ、有効だと思う。ただし、全員の分を揃えるという点では、課題も大きい。また、筆ペンの持ち方についても指導していく必要があると思う。
- ・消しゴムを使って自作の印を作り、清書の作品に押させたことで生徒の充実感もより高まっていたように思う。他教科を横断して取り組むこともできるので、よいと思う。
- ・前時に書いた試書の作品と本時の清書の作品を比較させると、生徒が自分の上達ぶりをより実感することができ、よかったのではないかとと思う。
- ・書写の作品としての文字の整え方をもっと意識させる必要があるのではないかとと思う。
- ・作品に書く言葉や文がいろいろあったので難しいとは思いますが、手本となる文字があると生徒も書きやすかったのではないかとと思う。

## (2) 学習指導案

第1学年 国語科書写学習指導案

令和元年12月3日(火) 第6校時  
指導者 教諭 松本 奈々

1 題材名 生活に生かそう(三省堂 P66～P67)

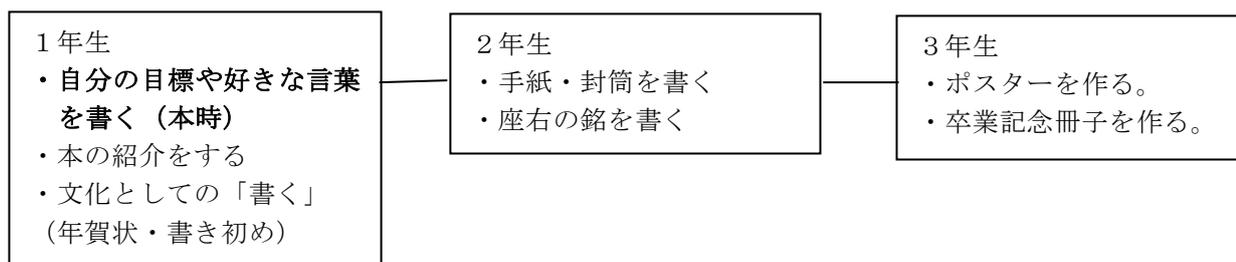
2 題材について

最近、至るところで、文字の乱れが叫ばれている。中学校の間でも、雑誌等の流行に左右される傾向が見られるように、文字に対する認識不足が顕著である。中学生の段階で、目的や場に応じた文字の書き方が身に付いていないことは、国語科書写指導における大きな課題である。

これらの状況から、中学生に文字に対する認識を深めさせ、文字を尊重していく態度を育てていかなければならない。そして、更には一般社会人として、目的や必要に応じて、文字を正しく、速く、美しく書く能力を身に付けさせることは、文字生活を豊かにし、国語を尊重する態度を育てることにつながると考える。

本題材の「生活に生かそう」は、書写学習の成果を日常的な場面で応用する単元である。書写学習は、身につけた知識・技能を日常生活の中で適切に運用してこそ意味をもつ。そのことを生徒が理解し、生活に生かそうという意識をもつことをねらいとする。

3 本題材に関わる学習の系統は次の通りである。



4 本題材を学習するにあたっての生徒の実態は以下の通りである。

(1) 自分の文字は好きか。 はい11人 まあまあ5人 あまり9人 いいえ9人

(2) 書写の授業は楽しいか。 はい14人 まあまあ7人 あまり8人 いいえ5人

(3) 書写の授業が日常生活に役立つと感じるか。  
はい6人 まあまあ5人 あまり8人 いいえ15人

(4) (3)の問いで「はい」と答えた理由

- ・字が小学校よりだんだんきれいになっていると思うから。
- ・身の周りの字(包み紙・店の看板など)を見るようになったから。  
(これは行書で書かれているなど)

- ・封筒の名前をまっすぐ書くことができたから。
- ・自分の名前がきれいに書けるようになったから。

(3)の問いで「いいえ」と答えた理由

- ・字がきれいにならないから。ノートやプリントに書く字がずっときたないから。
- ・書写の時間は丁寧に書くようにしているけど、普段の字は、きれいになっていないから。  
～自由記述～
- ・字を書くことは嫌いだけど、字が上手になりたい。
- ・縦書きの時に中心がそろわないのはなぜか。
- ・板書を写す時、いつも間に合わないので速くきれいに書けるようになりたい。
- ・年賀状を手書きで書きたい。
- ・お祝いの袋を親が書いていてかっこよかった。
- ・習字の時間は、習字道具を出すのが面倒だからあまり好きではない。

